

# 令和3年度 政務活動報告書（1）

会派又は議員名           緑風会          

政務活動期間	令和3年4月5日～6日（2日間）
政務活動先	稚内市議会
政務活動参加者	佐々木 常 子（公明） 秋 場 信 一（緑風会）
政務活動項目	○議会へのタブレット導入の目的と現状について
政務活動項目に係る目的・結果等の概要・所見	別紙のとおり

2021.4.5～6 稚内市役所 研修を終えて

ICT 化について実践形式で体験した。

稚内市では岡本議長の歓迎の挨拶から始まり、後藤議長のお礼のあいさつの後、以降は横沢副議長が紹介されメイン説明者として進行していきました。

我々含め、全員が iPad をそれぞれ手に取って、操作してみた。

職員数名、市議会議員も参加して研修の一部始終を録画し、終了後 YouTube にアップロードするとの確認を取り研修がスタートしました。

取材に関わった方は地元選出議員で、我々が手に取った同様の iPad 本体カメラでの取材であった。使用した機材はこのように iPhone と同様の機能も備えており、移動中や出先に於いても常に画像として記録ができ、政務など活動の幅が広がっているようでした。

この(マイクロソフトオフィスを搭載も可能)マルチ機能な iPad は、クラウド上に置いた膨大なデータを何時でも何処でも画面上に見やすく使いやすく※抽出できる。

議会で使うために必要なあらゆる資料(行政提出資料、議案書、報告書、条例集 e.t.c.)が有料のシステム(サイドボックス)を介することで、スムーズな使い方が可能になる。

このような運営のためのシステムは、数社が存在し、特徴をもって競争しているのだが、自らの手で膨大なデータを保管して各自のタブレットへの抽出を可能にするシステムを作ることは現実的な選択では無いと考える。

言い換えれば、ICT 機器だけあれば良いのではなく、それぞれ行政や議会の持っている情報を自在に出し入れ可能にする運営会社の選択が必要とされるのである。

ではその運営会社をどう選択するかは後の議論とし、まずは専門のデータ会社の実際に手に取って体験することが何よりはじめの一步でと感じる、また、議員個々の現状の ICT 関係の利用調査など含め、デジタル調査のようなアンケートを取るなど基礎データを基にして、無理のない取り組みをして行くことで、全員が一定の理解に到達して行けるよう ICT 化・ペーパーレス化へのスタートアップとすべきでないか。

加えて定期的な研修で能力の差を埋めていく勉強会があっても良いのではないのでしょうか。

この研修で実践的な体験を通しての感想だったのですが、では同時に、こんな時間と金を使って研修までする意義はあるのかと云う疑問が当然のように問われるのだが以下のように考えます。

～政策的背景から～

国の政策では教育や地方行政などデジタル化を急速に進められようとしている。GIGA スクール構想においては既に町はスタートしており、義務教育における ICT 環境の推進は大きな変革のスタートとして、この世代から新たな町の人材が育つ足掛かりになるものと思います。

そのような教育環境の中で若い世代は ICT 化の恩恵を受け新しいデジタル世代として急速に深化して行くことと期待されます。

町としても、ICT 化含めたデジタルでの行政事務の効率化が求められているなか国が推し進めるデジタルマイナンバーの活用拡大や地方自治体の行政システムの統一など、デジタル改革関連6法が可決したことで今後、増々デジタル化による ICT の活用が進んでいくものと認識している。指摘するまでもなく、今年度からデジタル課長として専門職員も登用したことからその流れはスムーズに加速していくものと考えられる。

議会においては、より効果的で効率的な議会運営と政治・政務活動でのリアルタイムの情報発信や災害時の情報共有 ICT 化への必要性はこれまで以上に社会的な要請として求められてくる。GIGA スクール構想、加速していく町行政のデジタル化の潮流に乗り遅れることなく追随、否、並走すべきであり、背景からも住民の理解は得やすいのではないか。その上で ICT 化を含めたデジタル関連の理解度を高める努力も必要であり、定期研修などで全議員が器機の操作可能な一定レベルの基準へ引き上げ共有し情報力を上げそのような取り組みは、住民や世代感ギャップを少なくしていくことにも繋がって行き、後に議会の改革へ押し上げていくものとする。

GIGA スクールとともに当別町全体の ICT 化によるデジタル改革は、今後の働き方改革へと進み、時間と金を使った分のあらゆる恩恵が得られることと確信し報告とします。

～器機の体験実習での感想から～

サイドブックスの運営会社が提供するシステムを使った今回の研修での体験は、

イメージしていたより、あらゆる面でリアル感のあるタブレット実習でした。

まず研修先の実践体験での感想は使用しているシステム(サイドブックス)と器機(ipad)

12.6 インチ画面サイズの使いやすさと見やすさとリアル感が第一印象だった。

※稚内議会の方たちからもサイズの的に大きすぎず、小さすぎず、ちょうどこのサイズがベストとの見解でした。

自分が常時使用のノート型 PC15.6 インチサイズですが、慣れたサイズからは小さめであるが違和感なく、画面のタッチした際のレスポンス(返ってくる指示反応)が予想以上に良かった。

また、ケースを付けると机の上では傾斜角度を自在に調節できるので使いやすく

サイドブックスであれば(他社も可能かも)、2画面式で直接メモ記入まで可能であり、

マイクロソフトオフィスの搭載も可能であって、多機能である、独自の機能かは不明も

システムの説明を確認したうえで、実践形式で体験を全員で実施することが

望ましいが、トータルでサイドブックスと ipadの相性は良いと感じた。

また、実践体験する前に、ipadの利用度情報など議員個々のアンケートを取り、

業者講習を受ける前段の講習会もあった方が説明会を受けられるとすれば、

より良い効果が期待できそうな気がします。

ペーパーレス、ICT 化とセットで考えなければならない運営会社(今回サイドブックス)は、

膨大な情報管理と安全性を備えた上でのセキュリティは万全と聞く。

機密漏洩保護の観点から運用の際にはそれらを踏まえたシステムが必要になってくる訳でどの運営会社も差はないと思われるが。

有効で実用性のある機能はどのシステムが良いのかは、利用している研修先の声は

かなり参考になると思う。

加えて、採用シェアや各運営会社の特徴

などを照らして自分に取り入れる基準になるのではないかな。

議論は必要になるが、実践形式で体験することが何より先行すべきと考える。

個人的な意見としては、サイドブックスのシステムを用いた稚内市議会採用の体験での

ipadのの相性と使いやすさは、かなりの手ごたえがあった。

そして、自分たちが選択する際の基準など難しく、ある程度の知識を持った人材に委ねても、

良いのではないのでしょうか。